

## 『生ピアノと電子ピアノの差』

ピアノレッスンを受けている方で、自宅練習用にピアノ購入を検討中の方に、**後で知って後悔しないように、生ピアノと電子ピアノの違い**を解説します。と言われて、生ピアノって何？よくわからないといわれる方多いと思います。生っていうとひょっとして腐るの？と思う人・・・そんな人はいませんよね。

生ピアノってというのは、ピアノの中に弦が張ってあって、その**弦を実際にハンマーがたたいて音がでるという構造**のピアノです。アコースティックピアノとも言いますが、生っていったほうがわかりやすいかな？って思ったわけです。グランドピアノや縦型ピアノが生ピアノということです。これに対して電子ピアノというのは弦がありません。弦をたたくハンマーもなく、**録音されたピアノの音をスピーカーから発音する構造**です。録音された音とはいってもデジタル録音ですから、ピアノに近い音がでます。ちょっと聴いた感じでは、たいした違いがないように感じます。

電子ピアノは生ピアノに比べて**圧倒的に価格が安い**です。今なら10万出せば、鍵盤数が88鍵でピアノとおなじような重さの鍵盤を使った電子ピアノが手に入ります。電子ピアノはヘッドホンが使えます。アパートやマンションでも**夜中に平気で練習ができます**。**軽量なので運送も容易**で、転勤の多いサラリーマンにとって非常にありがたいものになっています。

電子楽器の良いところは、一言で言うと便利さです。持ち運びも簡単。音も狂わないので、調律も必要ありません。便利であるがために、**万能のようなイメージが先行**しています。では便利ということは、ピアノ学習者にとって良い事なのでしょうか？ピアノを勉強するものにとって、**便利さは逆に大きなハンディキャップになる**ことをご存知ですか？

生ピアノは演奏者のタッチ（指先の動き）の強弱で、大

きな音を出したり、小さな音を出したりします。大きな音が出したければ、タッチを強くするしかありません。難しいパートで大きな音を出しつづけるには、何度も何度もくり返し練習して、早い動きでも力強く弾けるように努力するしかないのです。

しかし便利な電子ピアノには、音量を調節するボリュームレバーがついています。練習しなくても、**レバーを動かすだけで大きな音が出せる**のです。子どもが電子ピアノで練習していると、タッチが弱くなると言われる原因は、この便利さにあります。

またピアノレッスンでは、その曲想を表現するために、**タッチだけで音色を変えたり**します。指先を丸めて弾いたり、伸ばして弾いたり、打鍵スピードを変えたりすることで、微妙な音の違いを引き出します。指の腹の部分と指先の爪に近い部分で弾くのとでは、響きが違ってくるのだそうです。これはハンマーが実際に弦をたたいている生ピアノだからできることです。一方電子ピアノは指先のどの部分で弾いても、同じ力であれば全く同じ音しか出ず、**響きの違いを指先でコントロールする事ができません**。

結局電子ピアノの楽器としての価値は、生ピアノには全くありません。電子ピアノが生ピアノに対して勝っている部分はヘッドホンが使えて消音できることと、軽量であること、それと価格がお手ごろという3点だけなのです。電子ピアノは万能ピアノではなく**ピアノの代用ができるというイメージに切り替えて**ください。

電子ピアノは生ピアノの代用品ですから当然生ピアノと同じように鍵盤数が88鍵あります。鍵盤の幅は同じサイズですから、縦型ピアノと占めるスペースは大差がありません。ただ高さが低いので圧迫感はありません。万能のイメージにひきずられて、**コンパクトのように思いこんでいた**というだけなのです。